

キリスト教保育

2024年10月1日発行（毎月1日発行）第667号

年主題

さあ、漕ぎだそう
奏でよう

キリスト教保育祈祷日
10月第2金曜日

論説
遊びの大切さの再確認と子ども理解
久保健太

小論
木育をきっかけに
伊藤龍二



2024 OCT. 10

わたしは世の光である
光の子らしく歩きなさい

聖書 口語訳聖書・ヨハネによる福音書8章12

聖書 口語訳聖書・エペソ人への手紙5章8

天地創造のはじめ闇が淵の面にあった時、神は「光あれ」と言われて、第一に光を創造された。この世界とそこに生きるすべてのものの存在の根源に、まず、なくてはならぬものは、光であったということを示している。旧約聖書と新約聖書を貫いて、光は、聖書で最も代表的な言葉と言えよう。神は光であると言われる。「み顔の光」という言葉も、神ご自身を指すのである。そしてまた、神の言葉は、人間の歩むべき道を照らす光であり、そこに歩む正しい道は、光の道である。

新約聖書においては「私は世の光である」とあるように、神の光をこの世にもたらされたキリストこそ、真の光なのである。

光の子として生きるためには、まず、神の愛と恵みの光に照らされねばならない。「すべてのものは光にさらされて明らかにされ、明らかにされるものはみな、光となる」（エフェソの信徒への手紙5:13～14）とあるが、絶えず、光を受けていると、光のように変えられていくのである。光は闇（罪）を照らし出し、明らかにする厳しさを持つと共に、それらをやがて、光そのものに変えていく力とあたたかさを持っていると言えよう。

「光の子」らしく歩きなさいーらしく、とはどういう意味か。人間的な資格や能力ではなく、また、表面的なまねをすることでもない。光そのものの本質や生命からくるものと言わねばならない。光の子は、まず、キリストの福音の光に照らされつつ生きるのである。そして、次に、キリストの光を輝かす（いわば反射する）人間として歩むのである。私たちは真実の光を受けなければ、輝くことはできないのだ。

信仰をもって、愛と奉仕の生涯を貫かれた、有名無名の数多くの先輩たちは、光をかかげた人々であった。自己の栄光や成功を求める者の多い世の中で（それが過去の時代の生きがいであった）、己を捨てて、光をかかげたこれらの人々によって、人の心と社会の暗闇が、どれだけ明るくされたことであろう。

さらに光の子は、闇の力と戦う存在なのである。様々な意味で、この世の闇の力は強いけれども、遂に闇は光に打ち勝つことはできないのだ。その勝利の確信と希望をもって、真剣に歩むことが大切ではないか。

（田井中 純作・執筆 時・日本キリスト教団倉敷教会牧師）
1975年『キリスト教保育』誌10月号より

キリスト教保育

第667号10月号



年主題

さあ、漕ぎだそう 奏でよう

幼子とともにキリストへ
目次

〈巻頭言〉 若者よ、前を向きましょう 一色輝生 4

〈論説〉 遊びの大切さの再確認と

子ども理解 久保健太 6

〈小論〉 木育をきっかけに 伊藤龍二 14

図書紹介 吉田久仁子 木村拓巳 20

子どもと賛美するために 21

聖書に聞く・お話 月下星志 22

【カリキュラム】

10月 月のねがい表 25

心にとめて 犬童れい子 26

実践報告 小雀保育園 28

実践からの学び 西川恵 33

心にとめて 田中洋子 34

実践報告 聖学院みどり幼稚園 36

実践からの学び 岡田直美 42

絵本のとびら 佐藤優 43

私たちの園では 赤坂洋子 44

〈新連載〉 アタッチメント 遠藤利彦 46

〈連載〉 日々、子どもたちから

学んでいること 斎藤惇夫 48

目福口福耳福 久保小枝子 51

礼拝のお話 古重歌織 52

風 柴田俊 編集子 加藤早恵 61

連盟だより 62

表紙絵 田中横子 カット 松成真理子 金井ユリ 藤安初枝

中敵治子 小鯛みのり

